

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第11回）「表現力の育成」部会 要点録

開催日時	平成22年5月13日(木) 午後4時05分～午後5時50分	
会場	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室	
出席者	委員	村松賢一、荻部一夫、当間一則、山口義一、加藤芳和、井上康子、根本喜代江（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	五十嵐浩子 統括指導主事

部長

今日の部会の目的は各委員が持参した指導案の実践案を紹介し、今後どのようにまとめていくか、具体的にイメージしながら話を進めていきたい。

事務局

本日欠席の方からは事前に資料を頂戴している。

部長

それでは順番に説明をお願いします。

委員

まずは他の学年との交流を考えながら、聞き手に応じて方法を変えて伝えることをテーマとしてみた。7学年の実践例として対象を小学校低学年、5年生、高齢者というように年齢差をつけて設定している。同じ内容の記事を異なる世代に、分かりやすく伝えるために、高齢者や低学年の子にはどういう言葉を使って伝えるのがいいかを協議しながら、言葉選びということをやっていったらどうかと思う。

もう一つは第Ⅲ期での総合の時間を考えた。いまの子どもたちは話し合い活動に課題があるので、質問をしあって理解を深めたり、安易に多数決で物事を決めずに、相手に分かるまで様々な方法で伝えたりするという実践を考えた。内容としては6人のグループが7枚のコインをどのように分けるかというもの。コインの分け方をそれぞれ考え、グループとしての統一見解を作る。その見解がどんな考えに基づくものかを発表しあって、クラス全体で共有するという形だ。途中の過程は「相手意識」ということと関わると思う。

部長

これは実際にやってみたのか。

委員

来月やる予定だ。できるだけ妥協しない話し合いを練習させている。

アドバイザー

1時間の話し合いとしては、どんな流れになるのか。またコインの分け方としてどんな意見が出るかが予想されるのか。

委員

まずは自分で考え、次に班で意見を出し合い考える。最終的に班の見解を決定してなぜそうなったかを伝える。予想できる分け方としては、メンバーで一つずつ取り、最後の一つは物に変えて分け合う。また、人物設定をして誰かが生活上困っているのもそのメンバーには二つという考えや、困っている人が二人いるので残ったコインをパンに変え、半分ずつ与える、残ったコインは募金するなどいろいろなパターンが出てくると思う。平等でない分け方が出てくるといいと思う。

事務局

1つめの実践例は教科としては国語の特設単元になるのか。

委員

高齢者のように年齢の離れた人に伝えるというのは教科の中にはないので、体験を伝えるということになれば総合でも使えると思う。

部長

では次に欠席の先生の案に目を通す。職場体験に関するもので、Ⅱ期の6年生と7年生、Ⅲ期の8年生と9年生にわたって職場に関する調べ学習、体験発表会を行う。最後に小中合同の発表会を1年に一回くらい開くという単元設定はどうかという提案だが。

委員

同じような内容なので私からも説明する。職場体験は現在本校でも行われているが、やっていることをそのまま伝えても、小中一貫の意味はないので、いまやっていることを整理してみた。本校では全校生徒が集まる文化発表会の場で職場体験の発表会を行っている。中学2年生の体験発表を聞くことで中学1年生もあこがれの気持ちをもつ場となっている。一貫校ではⅡ期、Ⅰ期の子どもたちも全部集まるというのは難しいと思うが、集まった場で発表し引き継いでいくという形にもっていければと考えている。

具体的には総合的な学習の時間で扱う内容で、まず将来就きたい職業を個々が描く作業になる。どのような職業でもかまわないし、憧れでもいいのでなぜかという理由を考えさせ、それに結び付けて体験先を選ばせる。ここまではしっかり各自にまとめさせる作業を徹底していく必要がある。次に同じ体験先を選んだクラスを超えたグループをつくり、その小集団で発表し合うことで抵抗感をなくしていく。さらにいくつかのグループが集まり発表をしい、いいものを文化発表会に出すという流れで現在は行っている。

Ⅰ期、Ⅱ期につなげていく部分は省略させていただいたが、Ⅲ期の子どもたちの発表を聞いて学んだことをもとに、発表する機会を設定してはどうかと思う。

アドバイザー

体験発表会をⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期と続けていくが、Ⅲ期では職場体験、Ⅰ期・Ⅱ期は先輩の発表を聞いて学んだことを発表するというのでよいか。

委員

職場体験とは関係なく、Ⅰ期の子なら夏休みの体験など自分たちが体験したこと。先輩の発表を見て、発表の仕方などを学び自分たちの体験したことを伝えていく場を設けて、つなげていければと思う。

アドバイザー

欠席されている先生の合唱発表やデザインコンテストというのは職場体験発表とは違うが、別のアイデアということか。

委員

職場体験以外でも小中合同文化発表会ではそういった発表も考えられるのではないかということだと思う。

部長

それでは次の説明をお願いしたい。

委員

前回話したことを具体的にしてみた。縦割りで行うということで6年生と7年生の1クラスずつの兼ね合いで考えてみた。まず7年生が学びや思いをもとにテーマを決め、それを6年生におろして、合同で一つのものを作り上げるという流れ。

例えば7年生が環境問題に目を向けテーマを決めたら、6年生に何をしてもらい自分たちが何をするか役割分担を決定する。次に6年生に説明し共通理解を図る。6年生は7年生から言われた生命に関するパフォーマンスを何にするか考え、詩の群読に決定する。7年生は環境問題に関するパフォーマンスを話し合い、寸劇をすることを決定する。クラスでそれらの形を作ってから合同練習に入り、発表するというようなもの。

具体的な発表の流れとしては「6年生の合唱」→「7年生の寸劇」→「7年生の合唱」→「6年生の群読」→「合同合唱」というような形で「ドラムジカ」と呼ばれるもの。子どもたちの思いやテーマを一つの舞台の発表で作ることができるのではないかと思う。また、低学年でも歌や身体表現を使いながら一つのストーリーを作ることできると思う。

部長

発表内容として具体的に例が示されているが、実際はテーマやせりふ、寸劇、合唱などの構成は子どもたちが考えるのか。例では歌が3曲あり、各クラス2曲ずつ覚えなければならないが。

委員

テーマに関する歌などを先生に質問することはあると思うが、考えるのは子どもたち。歌については1番だけとか部分だけでもかまわない。

委員

夢があり、楽しそうでこういうことができたらいいと思う。私は以前、総合学習で歌と手話を組み合わせてみたが、子どももよくやってくれて面白いと思う。

アドバイザー

この例では「環境」というテーマ性が非常に強いが、低学年がやる場合でもテーマ性をもたせるのか。

委員

子どもたちが好きなキーワードや、やりたいと思うことでいいから、それをテーマにすればよいと思う。セリフや構成などは教員の手がかかると思うが。

部長

すごく楽しそうだが、指導者の力量が必要な気がする。曲をたくさん知っている音楽の先生が入ってくれないと難しいかもしれない。

委員

昨日本校で情報モラルの講習会があったが、そのなかで携帯メールの恐ろしさという話があった。文字だけのメールでは日頃の人間関係などで解釈が変わり、発信者の気持ちをつかむことは厳しいとのことだ。何で判断するかは「態度」「話し方」の順に割合が高く、「言葉・文字」は非常に低いというデータがあるそうだ。そういう意味で何かを伝える時に態度で示すこと、歌や言葉・話し方というのは要素として大きいのではと感じた。

部長

それでは2人目の欠席委員の案に移る。「主張大会」となっているが、何年生くらいを想定しているのか。

事務局

発達段階に応じてどの期でもやれると思う。本人は中学生を想定していると思うが、主張や発表・表現の場を設定するというアイデアで、応用が利く。具体的な部分には触れられていないが、学年発表や学年集会の機会をとらえようとしていると受け取れる。

アドバイザー

学年集会とはどういうものか。

事務局

月に一回程度定期的に行われ学年で話し合ったことを発表したり、学期末などには学級委員が中心になり子どもたちが企画、進行して学期の総括をしたりもする。基本的には特別活動になるが「主張大会」という提案は大きなイベントでもできるし、話をする場を継続して与えていくという意味では、学年集会の場などでも活用できると思う。

部長

では最後の欠席委員の提案に行きたいと思う。

事務局

説明させていただくが、本人にいただいた資料と事務局でそれをもとに指導資料のような形に直したものがある。提案は5年生で行く移動教室を核にして研究・発表をする16時間扱いの単元となっており、16時間のなかに重視する指導項目がすべて入っている。特徴としては移動教室に行き終わりでなく、既に経験している6、7年生に向けて発表し、こういう見方もあるのではといったアドバイスをもらい、さらに次年度に行く4年生に対しても発表の場を設けている。本区では必ず5年生で移動教室に行くので、練馬ならではのところを取り上げていただいたと思う。

事務局で作ったものは、ページ設定をきちんと示してほしいとの提案を受け、たたき台として示させていただいた。「活動のねらい」「各教科領域との関連」はどうしても考えていただかなければならない部分なので、勝手に足している。

部長

「各教科領域との関連」というのが気になっており、ここにこれを書く意味がいまひとつ分からないが。

事務局

特設単元だけやれば終わりではなく、9年間の教科や他領域の学びのなかでどんな学習がベースになり、今後どのような学習につながっていくのかを意識していただくために必要だ。

アドバイザー

私は「表現力の育成」の枠だけではできないことを、国語のこういう教材で学習してくださいという意味合いだと思っていたのだが。

事務局

その意味合いにプラスされるものだ。例えば中学の社会の先生が総合的な学習の時間を指導する場合、他教科のことは分からない。小学校の教科書をすべて見て、どんな学習をしてきたか理解していれば可能かもしれないが、教員全員が理解することは現実的ではないので、この資料のなかで示せばよいと思う。

部長

「活動のねらい」の冒頭の、部会でこういうことが確認されているという部分は必要か。

事務局

ここには表現力の部会のねらいしか書かれていないが、本来はこの活動をするためのねらいと表現力の部会のねらいを二つ書かなければならない。

部長

了解した。次の委員より提案をお願いしたい。

委員

特別活動で表現力の育成に関連付けやすいものを三つピックアップし、そのなかで「学校行事」の文化的行事、学習発表会について考えてみた。表現力を育成するには表現の場を用意し、実際に表現活動をさせなければいけない。その際、対象と目的をはっきりさせることが重要だが、小中一貫校の特色を生かすため、幅広い異年齢集団との交流を意識した実践例を考えてみた。

例えば6年生と7年生のクラス単位での「音読交流会」。6年生が発表したあと7年生が感想を言い、今度はその逆を行う。本校では昨日3、4年生でこれをやったがとてもいい雰囲気だった。1年の差でもずいぶん力が違うので、近い学年の組み合わせがよいと思う。

「合唱交流会」も同じような考えのもので、大々的なものではなくクラスごとでお互いのものを発表し合うことを想定している。

3番目の「学習発表会」もできればクラスごとなど小回りが利くよう発想したもので、職場体験なら8年生が5、6年生に発表し、後輩たちに将来の見通しをもたせることができる。

最後の「読みきかせ」は8年生でも9年生でもいいが、うんと離れている1年生などに対して行う。読み聞かせだけでなく紙芝居やペープサート、寸劇など方法は工夫しながら、どうすれば小さい子が理解しながら楽しめるかを考えさせる。これに関しては学年差が大きい方が効果があるのではないかと思う。

部長

活動によって学年差が小さい方が、大きい方がいいというのはその通りだと思う。ある一貫校で一番評判が悪いのは運動会とのことだ。9学年が一堂に運動会をするというのは、見ても飽きるし、同じような精神レベルの学年で集まった方が楽しいと思える場面もある。全校児童を相手に発表会をするという提案もあったが、この点を吟味する必要がある。

アドバイザー

実際にやられた3、4年の音読交流会だが、3年生の音読を4年生はきちんと聞いてくれるものか。

委員

聞くだけではなくその後で感想を言う場面があるので、一生懸命聞いていた。

部長

いまの子は声がすごく小さいので、表現力の基礎になる声を出すことは大事だと思う。音読発表会に限らず、日常的に音読をやっていくことが必要だと思う。

委員

原稿を見ながら読んでもかまわないから、とにかく人前で声を出し、聞かせるという段階が必要かと思う。

部長

次に副部長からご提案いただきたい。

委員

ディベートということで考えてきたが、これは調べる力や論点を整理して組み立てる力、相手意識も養えるので、いろいろなことが指導できると思う。3年生の進路前に面接を行うが、その最後に必ず最近のニュースや社会事象について問う。去年なら子どもたちは政権交代などと言うが、ではそれをどう思うのかと突っ込むとしどろもどろになってしまう。公民も勉強はしているが、中3ではまだ大人になりきれていない部分もあり、世の中のことにあまり目が向いていない。ディベートを3年の最後にちょっとやるのではなく、小中一貫校の積み重ねの上での最後の集大成にできればいいのではないかと思う。

テーマとしては「成人は18歳か20歳か」「死刑制度」、あるいは「裁判員制度」などが考えられ、ある程度自分の見識のなかでしっかりした考えをもたせたい。

裏ページには簡単なワークシートをつけさせていただいた。

委員

社会科でやると言われたか。

委員

社会科ではやっていない。ディベートは多くの先生ができるというものでもない。普段から学級会などで話し合う機会をもっていないと、いきなり重いテーマでディベートというのはできないと思う。

委員

国語では教科のなかにディベートがある。

部長

子どものモチベーションをあげるのが難しい。昔、富士山の南東斜面の大沢崩れに富士山が崩れないように砂防ダムのようなコンクリートのものを建設省が作ったが、環境省ができたときにそれはもう作るべきでないという意見が分かれた。6年生のクラスでそれについて君はどっちというのを話してすごく盛り上がった。テーマが子どもたちの興味に合えばすごく盛り上がるので、そういうテーマを部会として提案できればディベートもおもしろいのでは。

では最後に私から提案させていただく。単元としては小学校3年生で身近な学区域や地域社会のことを調べるもので、総合的な学習の時間を想定している。指導資料として、先生たちはどういう情報が欲しいのかという視点でこれをまとめさせていただいた。まず1「活動のねらい」として、活動自体の価値と表現力に関わるねらいが必要と思い書かせていただいた。

2「指導計画」では三つの塊に分けて、最初に課題把握、次に調べる、最後は伝えるという活動の区切りをしっかりと書かせていただいた。

3は表現力を育てるポイントをしっかりと書いておくことが大事ではないかと思い、皆さんに提案させていただく。ご検討いただき、もっとよい方法があればご意見をいただきたい。例えば調べる力を伸ばすところでは、方法をいくつか提示し長所や短所を比較させる。ただ「調べる」だけでは教師も子どももインターネットで調べればよいと思ってしまう。この表現力部会で大事にしたいのは、調べる力を伸ばすにはここでこういう方法をと、具体的に示すことではないかと思った。

「表現に関する技能」や「態度・相手意識」のところでも、いろいろな場面でこういう方法をとればよいということを、この資料を読んでもらえる先生に示して、参考になるように出来ればよいと思う。どちらかという内容の提案というより書式の提案をさせていただいた。

もう1枚は現在本校で使っているコンピューターリテラシーの年間指導計画だ。こういったものも9年間を見通したものが必要になるのではと思い、本日持ってきた。

事務局

中間報告書の中で表現力の部会をあえて実践例には触れず、理念を固めることに意を尽くしていただいた。それぞれの学習期の重視する指導項目も大まかなもので、中身に入る時間的余裕はなかった。よって、これをもう少し膨らませたものを提案してはどうか。そうしないとこの学習指導案は膨大なものになってしまい枚数的にも厳しくなると思う。もう一度中間まとめの表に戻っていただくのはどうかということをご提案させていただく。

それとリテラシーの問題は小学校と中学校で段差がある。小学校でここまでやっているなら、中学校はそこから先を頑張ろうという、9年間を見通したものが必要になってくると思う。

前課長がパワーポイントを使って子どもたちが原稿を読むのではなく、聴衆を見ながら発表できる、それが9年間やっただけの成果として欲しいと常々言っていた。最初は皆さんプレゼンということに戸惑っていたが、今では大事なことであることを強調していただいております。そういう方向に話が進んできていると思う。

部長

同じようなことを私も考えていた。中間まとめの第I期の部分に書かれていることをこの活動では具体的にどうするのかということがないと、活動例だけ書いてもだめだと思い、そのあたりをまとめてはという提案をさせていただいた。事務局でも考えていただき、皆さんからもこんなことを書いた方がいいといったご意見があればいただきたいと思う。

最後にアドバイザーより本日のまとめをお願いしたい。

アドバイザー

皆さんの提案を聞かせていただき、五つくらいの系統に分かれるのではないかと思います。

1つは自己紹介や自己アピールといった「自己表現」。今日の提案ではなかったのですが、入れていった方がいい。2番目はプレゼンテーション。3番目は意見を主張したり、相手を説得するといった「ディベート」や「主張大会」。4番目は楽しませるもので、今日の提案では「ドラマジカ」や「音読交流会」。5番目としては表現技能をとりたてた単元で、聞き手に応じてモードを変換して伝えるというのは、まさに典型的なものだと思う。

1つめの「自己紹介」などは低学年から積み重ねであっていいのではないかと。最終的には自己を語る2分くらいの話を手稿なしでできる、というようなものも練馬区の目標にされてはどうか。原稿を読むだけでは伝わらない大切なメッセージがあると思う。

本日の皆さんの提案をうかがい、大変心強く感じた。

部長

アドバイザーには五つの分野に整理していただいたので、まとめる上でこの五つを意識していければと思う。指導案の書式ではなく、音読やスピーチなど日常的に積み上げていくものもありだと感じた。そういうものも提案することを頭に入れ次回やろうと思う。次回までになにをやってくるかだが、どういう形でまとめるかについては事務局として検討が必要と思うが。

事務局

個別具体に入っているのは本部会だけ。この部会で最初にやったことを他部会にバックして検討してもらう必要がある。次の部会の前に部長とアドバイザーにお戻しできればと思う。

部長

それでは次回までにしてくるのだが、今日のものではないものを、ご指導いただいた五つの視点で分担したいと思う。

—次回までに考えてくる活動例を、五つの視点および学習期で分担—

(第12回小中一貫教育資料作成委員会「表現力の育成」部会 日程確認)

6月3日(木) 16:15～

場所：練馬区役所本庁舎 12F 教育委員会室

部長

それではよろしいでしょうか。どうもありがとうございました。